

令和2年度「地域発 元気づくり支援金」事業実施結果(北信地域)

整理番号	主事業区分	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち 支援金額 (円)	講評
1	農業の振興と農山村づくり	ソフト	一般社団法人日本きのこマイスター協会	信州中野 きのこ産業の歴史と未来	きのこ産業の歴史等について、企画展を実施するほか、お菓子作り教室、工場見学、収穫体験、栽培チャレンジ等のワークショップを実施し、すべての回(全3回)に参加した子どもには「キッズきのこマイスター」として認定する。 10月には、きのこ観察会を実施し、親子レクリエーション等を行う。 ①企画展開催費用(展示パネル、リーフレット作成等)、ワークショップ、イベント等	2,062,954	1,630,000	・企画展は、きのこの「食と健康」をテーマに、きのこ加工製品、きのこ健康について紹介や「きのこ総選挙」を実施し、きのこの興味や関心の拡大につながった。 ・子どもを対象にしたワークショップでは、栽培現場視察等を実施するとともに、きのこ観察会を開催する等子どもから大人まで地域の特産物であるきのこについてわかりやすく学ぶ機会を提供し関心を深めることができた。 ・ワークショップでは、キッズきのこマイスターを認定するなど、子どもの頃からきのこに対して継続して関心が持てるよう工夫されており、継続した取組に期待する。
2	保健、医療、福祉の充実	ソフト・ハード	信州Gプロジェクト	子どもの居場所作り事業	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、旅行等に行けない子どもたちに家庭でも作れる水鉄砲や、ひょうたんランプセットなどのプレゼントする企画「ハッピーカムカム(子ども救済プロジェクト)」を実施する。 目黒体が市内で2年間運営している「だしがやG」の衣類・学用品等の無料コーナーを雨天時や冬でも設置できるテントを購入。 ①イベント開催費用(水鉄砲・ひょうたんランプづくり経費)、②無料コーナーテント設置	990,510	751,000	・コロナ対策を行いながら、子どもたちの居場所と思い出を作るイベントが開催された。 ・フードドライブなどで家庭で不要になった衣類品や学用品等地域から提供された品を無料コーナーとして設置し、必要な方に活用してもらう取組が行われた。 ・年間を通して地域サポートできる無料コーナーの設置などに取り組んでおり、引き続き地域の居場所作りの取組に期待する。
3	教育、文化の振興	ソフト	特定非営利活動法人信州ふるさと郷育ネットワーク	子どもの環境・郷土学習に関わる事業	平成28年度に支援金を活用して作成した「中野市ふるさとドリル」を印刷し小学3年生に配布する。ほか、その後作成した英語(小・中学校校)の印刷、令和元元に初めて実施した「ふるさとジュニア検定」を実施する。 ①ふるさとドリル、ジュニア検定等印刷費、チラシ代	946,000	756,000	・平成28年度に作成した「中野市ふるさとドリル」の印刷に加え、「中野市ふるさとドリル英語版(教師用)」を作成し、配布したことで、市内の小学3年生から中学3年生の手にドリルが届き、郷土中野市への理解を一層深め、郷土愛の醸成につながった。 ・11月に実施した「第2回中野市ふるさとジュニア検定」では、前回から平均点が11点アップするなど、郷土に愛情を持つ子どもたちを育てる取組の成果が出てきている。 ・今後は、冊子配布からタブレット等での提供を見据えるなど、事業の継続的、発展的な取組に期待する。
4	地域協働の推進	ハード	中野市	手作り農村支援事業	農村地域における高齢化や後継者不足による農作業等の負担軽減と効率化を図るため、地域住民が協働して行う農道・水路の補修・整備の直接施工や維持管理活動に必要な材料支給や重機の提供等の支援を行う。 ①農道舗装7地区、水路改修10地区	11,758,925	5,878,000	・高齢化が進む農村地域での作業労力の負担軽減が図られた。 ・住民が自ら施工計画をたて協働作業を行うことで、自立意識の涵養と愛着を持った維持管理につながった。
5	地域協働の推進	ハード	飯山市	協働のむらづくり事業	住民と市が協働して農林業用施設を整備することにより、事業費を圧縮、施設の維持管理作業を軽減し、農林業生産の効率を高める。また、協働作業を通じて住民同士の交流、施設管理意識の向上を図る。 事業実施26箇所、うち支援金対象：農林道舗装等12箇所、水路改修15箇所、林道舗装2箇所 ②原材料購入費	6,257,408	3,770,000	・高齢化が進む農村地域での作業労力の負担軽減が図られた。 ・住民が自ら施工計画をたて協働作業を行うことで、自立意識の涵養と愛着を持った維持管理につながった。 ・地元負担金もあり、地域住民の連帯と活性化につながっている。
6	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト・ハード	飯山市	雪エネルギー推進事業	飯山市では雪の活用を検討するため民間事業者等と雪エネルギー検討会を立ち上げ、市所有の雪室に溜め、野山貯蔵し、味や食感の変化の実証や雪室の開発を行い、併せて首都圏でのPR等ブランド化を推進してきた。R2は雪室商品の開発品目(酢)と雪室を利用する事業者をさらに増やし、首都圏でのPRも実施して雪室のさらなる利活用を図る。 ①商品開発委託費(酢)、商品管理用消耗品・備品、首都圏PR放費	680,550	544,000	・雪室の温度湿度の管理や商品管理により、味の変化や出荷時期の延長など雪室効果の実証に加えて、雪室利用商品の開発につながった。 ・銀座Nagano等でのPRのほか、雪室内スペースを有効活用するための環境整備を行い、利用者の増加につながった。 ・飯山市雪エネルギー検討会として「雪室を利用した地域の特色ある商品開発」をテーマに参加した脱炭素チャレンジカップ2021では、全国144団体が参加する中、文部科学大臣賞を受賞し、取組は全国的にも高い評価を得ている。 ・引き続き、管内市町村のモデルとなるような発展的な取組に期待する。
7	特色ある観光地づくり	ソフト	一般社団法人信州いいやま観光局	信越自然郷“ふるさと”プロジェクト～自転車編～	信越自然郷アクティビティセンターでは広域エリアでのサイクルツーリズムの取組として地域内にサイクルステーションの設置やコース整備等ハード面を充実させ環境整備を進めてきたが、グリーン期の誘客が未だ課題である。平成30年には事業者等で構成されるワーキンググループを立ち上げ、令和元年度からは支援金を活用してE-BIKEを導入し幅広いユーザー層に訴求することができるようになった。令和2年度では、引き続き、E-BIKEのリースのほか、地域情報発信する誘客キャンペーン「信越ペダルキャンペーン」をオフロードを活用したツアーを計2回実施し、サイクルツーリズムの機運を高めていく。 ①E-BIKEリース10台分、地域情報発信誘客キャンペーン費用、中上級者向けツアー実施費用、ツアー告知チラシ等	1,892,707	1,300,000	・E-BIKEの導入は、起伏の多い当地域の地形を克服する観光資源として、グリーンシーズンの誘客やコロナ禍にも対応しており、レンタル稼働が前年比41.3%と利用者の増加につながった。 ・今後も、信越自然郷他市町村と連携した地域一体での有効活用に加え、県全域で推進している「Japan Alps Cycling プロジェクト」と連携した取組に期待する。
8	特色ある観光地づくり	ソフト	NPO法人信越トレイルクラブ	信越トレイル延伸に伴う広域観光推進事業	平成30年に全線開通10周年を迎え、令和2年秋には苗場山まで延伸されることから、令和元年度に引き続き、延伸を契機とした信越トレイルの魅力発信として、パンフレットやマップ、ガイドブックを作成する。また、令和元年度に作成した公式ホームページに掲載する延伸区間を中心にハイキングをレポートしたWEBコンテンツを制作する。 ①マップ、パンフレット印刷費用、ガイドブック製作・印刷費用、HP用プロモーションコンテンツ制作費用	2,904,000	2,323,000	・当初予定していた信越トレイルの延伸に伴う広報やイベントは、コロナウイルス禍による延伸の1年延期により、内容を見直したが、情報提供ツール(マップ、パンフレット、HP)を活用して現行ルートでのPRを行うことで、テントサイト利用者の増加につながった。 ・令和3年は、1年延長となった全線開通が予定されており、適切に事業の執行管理を行い、継続して発展的な取組が行われるように期待する。
9	教育、文化の振興	ソフト	特定非営利活動法人ばーむむいす	若者が地域に自分の出番を創る製革学習	不登校や引きこもりなど社会生活に困難を有する子ども・若者に、地元猟友会の協力のもと、鹿や熊の解体後の皮を有効活用し、令和元年は年間10枚の皮をなめすことができた。令和2年はさらなる製革技術の向上に取り組みほか、なめした皮を活用したビジネスモデルの具体化を目指す研究会「PALMVOICE LABO」を開催し、下高井農林高校や縫製を担う障がい者施設など多様な人材と関わりながらコミュニケーション能力や課題解決能力を高めていく。 ①研究会コーディネート謝礼、なめし材、作業場所整備原材料等	1,022,048	557,000	・社会的自立に困難さを持つ若者を、鹿ならぬの実習を通して、人と関わる機会とともに、技術的・精神的に地域への出番のきっかけを創ったことで、6名の就労につながり、成果が現れている。 ・今後も、長野県立大学と連携した対面指導や試験販売等の継続した取組に期待する。

10	安全・安心な地域づくり	ハード	藤沢区	雪国でも安心して生活できる克雪集落づくり事業	令和元年度から3か年計画で、長年の課題であった集落内の機械除雪ができない狭小道路を自然流水で消雪するための設備の施工、水路改修、排雪用タネの整備を行い、集落全体での効果的な除雪を目指す。施工は住民ができる部分は自ら行う。 令和2年度は、水路の改修1箇所ほか、排雪・融雪用のタネを3箇所設置する工事を実施。 ②水路改修原材料、現場管理費、タネ整備3箇所、運搬費、諸経費等	7,920,000	5,940,000	・高齢者が多く降雪量が多い地域でも少ない労力で消雪できるよう、排雪用のタネの整備や水路改修工事を住民自らで作業に取り組み、安全・安心な生活につながった。 ・今後も、住民自らで考え行動することで、集落の課題発見や意識の共有が図られるよう期待する。
11	農業の振興と農山村づくり	ソフト	一般社団法人 飯山そば振興研究会	飯山のそばによる元気な地域づくり事業	飯山市内の小規模そば生産者団体で組織される研究会が、平成30年度から支援金を活用してそばの6次産業化を目指している。これまでコンパインや製麵所、真空包装機を整備してきたが、そばは種の状態にすることで利益が上がるため、令和2年度は製麵機と急速冷凍機を導入し、夏場に大量に生産できない手打ちの課題を解決するとともに、市内のそば店舗での提供やふるさと納税の返礼品等により、「いいやまそば」の付加価値向上、魅力発信を図る。 ①商品開発、情報発信・PR、②製麵機、急速冷凍機、製麵所空調設備	5,020,186	3,776,000	・これまで2年間の活動を踏まえ、製麵機や急速冷凍機を導入することで、収穫から製麵までの6次産業化に道筋がついた。 ・本格的な販売に向け、試作品の製造、ブランド向上のためのロゴマーク作成とともに、将来の担い手となる打ち手の育成までつなげられた。 ・引き続き地域との連携を進め、生産体制の強化と販路拡大等に取り組み、雪室熟成そばの振興が進むよう期待する。
12	商業の振興	ソフト・ハード	飯山仏壇事業協同組合	飯山仏壇「思い出の門」プロモーション大作戦展開事業	国指定の伝統的工芸品である飯山仏壇は、ライフスタイルの変化などにより仏壇市場の縮小化により厳しい状況が続いている。そこで令和元年度に飯山仏壇通りの魅力と飯山仏壇をわかりやすく情報発信し、仏壇への親近感を醸成しより集客につなげやすく、飯山仏壇の産業振興を図るポスターコンテストを実施したところ大きな反響を呼んだ。令和2年度は飯山仏壇の新たなコンセプトである「思い出の門」ポスターの掲示、PV等でPRし、コンセプトに沿った商品開発をすることで、飯山仏壇通りを盛り上げ、仏壇市場の拡大を目指す。 ①ポスターコンテストキックオフイベント・表彰式等運営経費・謝金等、コンテストチラシ・ポスター・広告等、イベント、商品開発等消耗品、動画作成、WEB投票システム、HP作成、ポスターデザイン調整・印刷費、コンテスト用ポスター制作団体活動補助、②3Dプリンター購入費 等	5,474,530	4,359,000	・飯山仏壇の新たなコンセプトである「命は美しく尊い」をテーマに実施した4回の大型ポスター一展示は、各種メディアに取り上げられ、飯山仏壇と飯山仏壇通りの魅力発信につながった。 ・新たなコンセプトのもと新商品「命の器」の開発が進められ、試作品の発表までつなげられた。 ・今後は、試作品段階の「命の器」の商品化とともに、継続的な飯山仏壇・飯山仏壇通りの魅力発信に期待する。
13	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	かまくら祭り実行委員会	信州いいやま「かまくらの里」の持続・発展を支える事業	飯山市外縁地区住民の地道な努力等により、かまくらの里やかまくらレストラフは国内外から注目される観光コンテンツとなっているが、この取組を継続的に発展させ、雪国の知恵や雪を楽しむ体験の発信・提供ができるよう会場照明や案内看板を設置する。R1は暖冬により初めかまくらを走り直す必要が生じたため、今後を見据え、かまくらの雨・日除けシート等を購入する。また、先駆的な取組であることから「かまくらの里」など3つの商標登録を行い、かまくらの里ブランドの安定的な使用・発信を図る。 ①スタッフウェア28人分、雨・日除けシート4枚分、商標登録申請費用、案内横断幕 ②会場夜間照明設置工事、案内看板	1,404,291	1,068,000	・かまくらの里やかまくらレストラフは国内外から注目される観光コンテンツであるが、暖冬期や夜間対応等の課題となっていた部分に適切に対応することで、利用者数の回復や滞在時間の延長等の成果につながった。 ・「かまくらの里」など3点について商標登録を行い、継続的な活動の基礎固めにつながった。 ・今後も、Withコロナを見据え、事業継続とともに、拡大されることを期待する。
14	教育、文化の振興	ソフト	宇木古代桜ふるさと事業実行委員会	宇木古代桜樹勢回復事業	山ノ内町宇木地区には県の天然記念物である千歳桜をはじめ5本の古代桜があり、善光寺平を一望できる景観だから、同地区では4月の宇木古代桜まつりを開催して古代桜を生かした地域の魅力発信を行っている。 こうしたなか、樹齢850年余の千歳桜をはじめ、古代桜は経年による樹勢の低下があり、地域の歴史ある資源の維持保全が課題である。 そこで、樹勢の回復事業等を実施し、地域資源の保全に努めつつ、折れてしまった千歳桜の枝を活用した勾玉づくりワークショップを子どもたちと行うことで地域の歴史を学ぶ郷土愛の醸成を図る。勾玉は、古代桜まつりで行っている募金への返礼品とし、募金は今後の木の治療に充てる。 ①枯れ枝除去・施肥等作業委託、源平桜復活用紅しだれ桜植樹、ワークショップ経費	530,000	424,000	・県の天然記念物である千歳桜をはじめ5本の古代桜の維持や樹勢の回復等の維持管理を実施し、地域資源の保全につながった。 ・地域の子と連を対象に古代桜に関するワークショップを開催し、地域資源の伝承等を通して、郷土愛の醸成が図られた。 ・今後も、古代桜を地域資源の核として事業を継続し、地域の活性化につなげていくことに期待する。
15	農業の振興と農山村づくり	ハード	山ノ内町そば生産振興組合	山ノ内町そば生産強化事業	町では須賀川そばを町内だけでなく銀座NAGANOのイベントでPRするなど、須賀川そばの認知度や付加価値の向上に取り組んできたが、令和元年度に農水省から「SAVOR JAPAN（農林食文化海外発信地域）」に認定されたことを受け、そば打ち体験などと併せてさらなるPRをし、インバウンドの推進を図ることとなった。 今後、須賀川そばの需要増が見込まれるが、須賀川そばの生産を担っている団体の現在の設備状況では、栽培面積的に適期収穫や乾燥調製が難しいため、コンパイン等を導入することで収穫量の向上を図る。 ②そば収穫用コンパイン、そば乾燥機	6,583,500	4,937,000	・山ノ内町地域（須賀川そば）は、令和元年度にSAVOR JAPAN（農林食文化海外発信地域）に認定されたことにより、今後必要の拡大が見込まれていたが、コンパインの増設と乾燥機の導入による適期収穫により、単収増加が図られた。 ・生産資材の導入により、そばの作付面積の拡大が可能となり、農地の流動化が進み、遊休農地の拡大防止につながった。 ・今後も、事業を継続し、消費拡大とともに作付面積の拡大に期待する。
16	その他（産業の振興及び雇用の拡大）	ソフト・ハード	すがかわ暮らし応援隊	須賀川地区フットバスコース「益じやもの」開設事業	須賀川地区にある「とりで街道」が平成29年にNPO法人新日本歩道歩行推進機構から「新日本歩道100選ふるさと道」に認定されたことを受け、歴史ある街道をフットバスとして整備し、同時に地域に伝承される民謡と組み合わせたいフットバスとして、訪れる人に暮らしや文化等、地域のありのままの風景を体験してもらおう。 ①コースマップ作成、案内看板、新聞広告、民謡の収録、ガイド養成講師謝礼等、②コース大型案内板	893,102	695,000	・一部街道となっていた昔の街道「とりで街道」を始め、地域内にフットバスコースを整備し、体験会等の開催を通じて地域活性化につながった。 ・地域住民もフットバスを体験することで、地域の歴史や文化に触れ様々な人と交流し、郷土愛の醸成につながった。 ・今後も、フットバスを継続して実施することで、地域住民の故郷への愛着心と地域活性化に期待する。
17	地域協働の推進	ハード	山ノ内町	地域協働で農業に活力を与えるための施設整備（農業用水路網銅蓋の設置）	高齢化等により農業経営の先行きが不安定な中、地域住民が協同で農道等の整備を行うことにより地域のつながりを深め、農業に活力を与え、農村全体が元気になる。 ②農業用水路網銅蓋設置2地区 原材料費	1,606,700	803,000	・高齢化が進む農村地域での作業労力の負担軽減が図られた。 ・住民が自ら施工計画をたて協働作業を行うことで、住民意識の涵養と愛着を持った維持管理につながった。
18	環境保全、景観形成	ソフト・ハード	特定非営利活動法人太陽と水と緑のプロジェクト	安全・安心な魅力ある木島平エコグレイジ推進事業	村内に超小水力発電の設置、村内50世帯への小型ソーラーパネルのモデル設置（ワークショップ含む）により、自然エネルギーへの村民意識の高揚を図る。 ①超小水力発電設置2台、小型ソーラーパネル50台、講師謝金等ワークショップ経費	762,416	571,000	・水路を利用した超小水力発電や小太陽発電の地域住民へのモニタリングを通して、自然エネルギーへの理解促進につながった。 ・機器のモニタリングでは、賞与できなかった人から事業継続の要望も出ており、地域住民と連携を図りながら、事業が継続されることに期待する。
19	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	特定非営利活動法人地域創生研究所あつまれむらびと	地域課題解決のための人材育成を目指す学び企画	これまでサロン活動等で住民からアイデアが出て、資金、手法、人材などの課題のため、表現に至らなかったケースが多かったため、令和元年度は先進事例やノウハウを学ぶ研修会を様々なテーマの専門家を講師に年10回開催した。令和2年度は、令和元年度に学んだ講座から地域に必要なと思われる「特産品開発」についてさらに深く学び、アイデアソン等（オンライン）によって特産品を中心とした観光素材の開発を目指す。 ①アイデアソン企画運営一式、講師謝礼等、授業企画、チラシデザイン・印刷等	399,840	319,000	・地域の課題解決に向けて、専門家等から学ぶアイデアソンを開催し、地域住民が様々な視点から地域課題に向き合うきっかけにつながった。 ・今後とも、オンライン等によるミーティングを継続し、実践に向けた取組に期待する。
20	特色ある観光づくり	ソフト・ハード	一般社団法人 木島平村観光振興局	木島平村の強みを活かしたウォーキング&サイクルツーリズム事業	近年、従来のようなツアーやイベント中心の旅行から、多様で個性化したニーズを求める個人客が増え、観光振興局でも旅行部会による検討を行い、内山乃々ツアーや高社山トロッピングなどを実施してきた。令和2年度は、「自然豊かな農村」という強みを生かし、地域住民も交えた局の各部会（誘客室、旅行、特産品）との協働検討により、飯山駅等近隣市町村との連携も加味し、「木島平のそのまの風景」を活用したウォーキングや自転車による散策・宿泊に特化した事業を進める。 ①村内周遊パンフレットの作成16×3,000部、スタンパリーの開催経費（年1回）、ウォーキングイベント企画運営、広告委託、②電動自転車2台購入	2,443,633	1,922,000	・パンフレットの作成やスタンパリーの開催等により、新たな村内の観光資源の発掘に加え、スタンパリーに参加した事業所等の観光事業への意識醸成につながった。 ・木島平村の観光資源の強みである「自然豊かな農村」の魅力を、E-BIKE購入やスタンパリー等の実施により内外に発信し、周遊型来訪者の開拓につながった。 ・今後も、信頼自然郷他市町村と連携した地域一体での有効活用の取組に期待する。

21	地域協働の推進	ハード	野沢温泉村	手づくり林道舗装等事業	農地・林地の荒廃を防ぐため、地元住民が互いに協力し必要な林道舗装等を行い、農作業の効率化と生産意欲の向上、林業振興を図る。 ①原材料費支給 林道2か所	817,850	545,000	・高齢化が進む農村地域での作業労力の負担軽減が図られた。 ・住民が自ら施工計画をたて協働作業を行うことで、自立的意識の涵養と愛着を持った維持管理につながった。
22	特色ある観光地づくり	ハード	野沢温泉村	E-BIKEによる温泉街等周遊プロジェクト	野沢温泉村は坂が多くサイクリングには適さないが、E-BIKEであれば坂道もなんなく操作できる。村では「温泉街そぞろ歩き」を謳っているが、村内の観光名所をE-BIKEで簡単散歩できるようにすれば観光ツールが増え、信越自然郷が推進しているサイクルツーリズムと連携することで観光客から野沢温泉までサイクリングを楽しみ、温泉で疲れを癒すなど様々な活用方法がある。 なお、E-BIKEの貸出は観光協会が担当。 ②E-BIKE（マウンテンバイクタイプ）2台購入	811,800	608,000	・E-BIKE導入により、更なる地域の魅力を限られた時間でお客様に提供、提案できる環境が整った。 ・E-BIKEレンタル台数52台 ・旅行ツアーでのレンタル38台
23	農業の振興と農山村づくり	ハード	小赤沢活性化倶楽部	秋山地域の野生鳥獣被害対策と集落維持事業	栄村秋山地域は山間地で狭い耕作地を活用して稲作、山菜、きのこなどを栽培している。近年、野生鳥獣特ニホンジカ、イノシシ、サルが農林産物を食い荒らしたり踏みつけたりして出荷できない被害が多く出ている。行政では電気柵の補助や鳥獣対策隊によるパトロールを行っているが被害は食い止められていない。 そこで、熱センサーや撃退用スピーカー、ロケット花火などを搭載したドローンを導入し、ドローンの操縦講習会を行うとともに、野生鳥獣を追い払うほか猟友会とも連携して有害駆除を行う。 ②ドローン購入	585,145	438,000	・ドローンの操縦講習により操縦者を養成し、ドローンを活用したパトロールを行うことで、野生鳥獣被害から農作物を守る活動につながった。 ・今後は、地域の若者や猟友会と連携して、事業を継続することを期待する。
24	教育、文化の振興	ソフト	ふれあい会	楽しみのある地域づくり	栄村にはさるぼぼなどの伝統工芸、あんぼなどの郷土料理があるが、人口減少や少子化により、若い世代がこの地域に適応した技術や知恵に触れる機会が減ってきている。そこで、技術や知恵を持つ団体が、主に子育て世代を対象に子ども用のちゃんちゃんこや半纏づくり、簡単にできる郷土料理講習会を開催することで若い世代でも伝統に親しみやすい環境をつくり、次の世代へ継承していく。 ①ミシン2台、ホットプレート、フードプロセッサー等調理器具、アイロン等	468,413	362,000	・伝統工芸や郷土料理の若い世代への伝承を通じて、高齢者のやりがいや、コミュニティの維持につながった。 ・若い世代が2名新規加入したり、男性の準会員が加入する等、地域で取組の成果が現れている。 ・活動とともに、高齢者も新作づくりの目標を持つなど、やりがいや積極性が生まれた。 ・高齢者が無理なく楽しめる活動の場を維持するとともに、伝統が継承されていくことに期待する。
25	地域協働の推進	ハード	森区	高齢者活躍	森区では、道路及び水路の維持管理のため、休日に行う普請等で刈払いによる除草作業を行っている。近年は、作業人員の不足や高齢化により限られた若い現役世代に平日に休みを取ってもらい重作業してもらうなどを負担をかけている。そこで、日中時間のある高齢者でも安全に扱える自走式の動機を導入することで若い世代の負担を軽減し、高齢者が活躍し、生きがいをもって地域に貢献できる機会を創出する。 ②自走式動機一式	521,400	347,000	・従来は若い現役世代が休暇を取って作業していたが、高齢者でも余裕を持ちながら生活道路や通学路、荒地等の環境整備（除草作業）が行え、高齢者の活躍の場の創出につながった。 ・今後も、体力的な衰えでの引退・離農が緩和できるよう、継続した取組に期待する。
26	特色ある観光地づくり	ソフト・ハード	栄村秋山郷観光協会	森宮野原駅周辺及び秋山郷天池環境整備事業	栄村は、平成23年の震災以降、観光客の減少が課題で、村内観光施設の受入環境の向上に取り組んでいる。令和元年度に森宮野原駅周辺の環境整備に取り組んだが、観光客の満足度をより高めるため、令和2年度は駅から道の駅に続く千曲川遊歩道を散策できるように整備し、村の新たな観光資源とする。また、長野大学と協働して駅前周辺店舗のシャッター10箇所に絵を描いてもらいN.S等で発信し写真スポット化する。さらに、主要な観光スポットである秋山郷天池に周辺の案内看板を設置し、散策等滞在時間の増加を目指す。 ①森宮野原駅周辺花壇整備、千曲川遊歩道の整備、駅前シャッターアート消耗品、学生交通費・滞在費補助、レンタサイクル保管用コンテナリース、②天池案内看板設置	841,006	634,000	・村内の観光客を増やすため、村民や長野大学の学生と連携して森宮野原駅周辺において、千曲川遊歩道の整備、シャッターアートやレンタサイクルを導入し、観光客の受入環境の整備を進め、利用者の増加につながった。 ・今後も、事業を継続するとともに、信越自然郷との連携による事業の拡大に期待する。
27	農業の振興と農山村づくり	ハード	栄村	農地等国土保全事業	農業従事者の高齢化が進む中、農業用施設の維持管理作業の軽減を図るため、集落等の要望により改修が必要な農道及び排水水路等について、村が原材料等を支給する。 ②原材料支給:農道舗装等2箇所、水路等改修7箇所	2,338,083	1,324,000	・高齢化が進む農村地域での作業労力の負担軽減が図られた。 ・住民が自ら施工計画をたて協働作業を行うことで、自立的意識の涵養と愛着を持った維持管理につながった。 ・地元負担金もあり、地域住民の連帯と活性化につながっている。

全27事業